校長の生徒・先生応援日記　学びの匂い
Vol.26

小さな議論が学校を変える

昔から、三人寄れば文殊の知恵、と言います。文殊とは、文殊菩薩、すなわち、仏教の教えに出てくる智慧を司る仏様のことです。正式名称は「文殊師利菩薩（もんじゅしりぼさつ)」というそうです。物事の正しい在り方を見極める力と判断力に優れ、その智慧で人々を悟りへ導くと伝えられています。このことわざには、あるキーワードがあります。それは、三人寄ればの「寄れば」です。少ない人数で優れた知恵を求めるよりも、多くの人が集まれば、文殊、すなわち、「文殊菩薩」のようなアイデアが生まれてくることを意味します。さて、ここで一つ疑問があります。なぜ２人ではダメなのでしょうか。それについては、過去の経験から理解したことがありました。

以前、私が教育行政に勤めていた時の出来事です。全国高等学校総合体育大会の開催に向けた準備として、基本方針、基本計画、基準要項を策定した時のこと、ある係長と二人で意見を交わしていました。教師として培ってきた教育持論をもつ私と、行政のキャリアを積み重ねてきた係長との対話は、お互いの意見を譲ることができず、３か月以上経過しても、活路を見出せることができませんでした。そのため、プロジェクトチームを立ち上げ、三人で意見を出し合うことになりました。

私と係長の一致しない見解に、第三者の発する全く違う観点を重ねると、二人では気が付くことができなかったメリットやデメリットも理解できるなど、ぼやけていた事柄が少しずつ見えてくることを実感しました。まさに、二人での会議は、議論ではなく、単なる意見交換に過ぎなかったのです。物事を解決させるには、必ず、客観性が問われます。個々の思いや力業では、例え、解決できることとなっても、誰かが我慢したり、犠牲になったりします。場合によっては、後々大きな問題へと発展することもあります。昨今、世の中を見渡すと、大きなイベント開催には、必ずといえるほど、私利私欲に目がくらみ、誰かが良い思いをしてしまう、そんなことを目にします。小さな、自信のない考えであったとしても、三人が意見を出し合うことで、一人の優秀な人材が出すアイデア以上の解決力を導き出せることが分かりました。

令和７年１月２５日（土)、生徒会サミットを開催し、１２支部私立高等学校７校の生徒会執行部が一堂に集まりました。国で言えば、社会や政治を司る大きな役割を担う生徒会の皆さんです。会場では、校則をはじめ、学校の PR 方法など、生徒会活動を活性化させるための方策や課題を提示し、解決に向けた取組や個々の考えをアイデアとする議論が展開されました。

今日の会議は、皆さんにとって小さな一歩であったかも知れません。しかし、行動を起こせば、必ず見方が変わり、話し合いを持てば誰もが変化の担い手になれると気付いたことでしょう。一つ一つの行動がもたらす効果は小さくても、集合体となれば必ず力になる。たとえ自校に大きな問題があっても、他校の生徒の考えが加われば、解決できる貴重な知恵となり、ついには学校を変える力となっていくはずです。そもそも社会に出れば、正解なんてどこにもありません。あるのは、「どうすればいいんだろう」と直面する問題に真摯に向き合い、そして、選択することの連続です。

会場では、各校の生徒代表が寄り集まることで出された知恵が学びの匂いとなって、文殊菩薩をも超える活路を見出していました。

令和７年１月